

東日本大震災復興支援

お礼ならびに2013年の活動報告

ピースウィンズ・ジャパン (PWJ) に対するご支援、
ご協力に深く感謝申し上げます。

東北地方の太平洋沿岸をはじめとする広範な地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災の発生から、2014年3月11日で3年を迎えます。地震や津波の被害を受けられたみなさま、今なお不自由な生活を送られているみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。

被災地では、住宅や商店、漁業関連施設、道路の復旧など、まちづくりの取り組みが続いています。しかし、沿岸部の土地をかさ上げするのか、巨大な防潮堤をつくるべきなのか、あるいは高台へ集団移転するのかなど、住民のみなさんにとって結論を出すのが難しい多くの課題がのしかかりました。工事は進んでいますが、今も多くの方が仮の住まいで生活されています。

なじみの住民同士が顔を合わせる機会が減り、コミュニティのきずなを保つための工夫や仕掛けが、ますます大切になっています。PWJは今、地域の方と協力しながら、年配の方や社会的弱者をはじめとする住民のみなさんが集い、活動する場づくりに最も力を入れています。

この地域の方がとても大切にしているのが、知り合いとお茶を飲みながら雑談する「お茶っこ」の時間です。「お茶っこ」での笑顔は、私たちを和ませてくれるとともに、あれだけの苦難を体験してもめげない東北の人の芯の強さを感じさせてくれます。

今回、2013年の活動を中心に震災復興支援の取り組みをご紹介します。PWJは、今後も地域の方に寄り添いながら、被災地復興の支援を続けていきたいと考えております。引き続き、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2014年3月 ピースウィンズ・ジャパン 代表理事 大西 健丞



高齢者らが集い活動する場を再び

住民が日々集い、仕事や、趣味・スポーツに興じていた震災前の日常の一部を取り戻し、町や地域コミュニティの再生につなげるため、PWJは宮城県南三陸町で、高齢者らが集い、活動するための施設の建設を進めています。

この「いきがいサポートセンター」（仮称）は、軽作業などのあっせんサービスと高齢者・地域の人びとが交流する空間の再生が大きな柱。併設するカフェでは障がいを持つ人に働く場を提供したり、現地NPOと協力

して障がいを持った子どもたちを放課後に預かったりするサービスの拠点とすることも検討しています。

震災前、同町にはシルバー人材センターがあり、ワカメやウニ、カキなどの養殖にかかわる軽作業、植木の手入れや草刈りなどの作業を、働く意欲のある高齢者にあっせんしていました。同センターを拠点に「シルバー友の会」が活動していて、陶芸や竹籠づくり、グラウンドゴルフなどの趣味の活動が活発でした。

この取り組みでは、住民自身が利用方法の決定や施設運営を担っていくことを重視しています。2013年秋以来、住民有志で紙すきや陶芸の施設、菜種油を抽出・加工する会社、障がいを持つ人が働く水産加工や牛タン加工の作業所の視察を行い、利用方法について話し合ってきました。工事は2014年1月に始まり、春以降、本格的な活用が始められる予定です。

※この事業は、みなさまからのご寄付のほか、ジャパン・プラットフォームの協力も得て実施しています。



いきがいサポートセンター 完成イメージ

元南三陸町

シルバー人材センター

事務局長 鈴木清美さん

主だったメンバーが復興のために奔走せざるを得ないことから、センターは再建を断念し、昨秋、解散しました。仕事のあっせんがなくなり、水産加工業

などにも影響が出ています。友の会では、技を持った人が興味のある人にその技を教えて、みんないきいきしてたけど、友の会の活動もなくなって、みんなバラバラに。仮設住宅にこもる人も少なくありません。早く新しい拠点ができてほしいと思っています。



鈴木清美さん



類似の施設を視察する住民のみなさん



視察の状況も踏まえて議論

PWJ東北事業調整員 西城幸江

津波が町を襲ってから、もうすぐ3年がたとうとしています。地元、南三陸町出身の私は、小さいころから元気なお年寄りたちの姿を見て育ちました。しかし、津波は、お年寄りの活動の場を奪っていきました。以前のように、お年寄りが生活の中で楽しさを見いだせる場所をつくり出すことが、私の現在の目標です。

住民だれもが気がねなく立ち寄れる場所を目指し、まずは、お年寄りと障がいを持った人たちが一緒に作業をできる機会をつくりたいと思います。例えば、町内の「のぞみ福祉作業所」と一緒に、牛乳パックを原料とした「紙すき」で再生紙を一緒に作る、その方法は作業所の利用者から教えてもらう、ということを考えています。そうしたことから交流が生まれ、お年寄りもお年寄り以外の住民も元気を取り戻す。いろいろな人と協力しながら、そんな将来をつくれたらと考えています。



PWJ 西城

地元産品の販売・レストラン・体験で地域再生を

震災後、PWJは、経済復興を重視し、多様な支援を続けてきました。漁業や商店街の再生支援などに続き、2013年は、生態系の保全に取り組みながら雇用や地域再生を目指す取り組みをサポートしました。

「森が川を通じて豊かな海を育んでいる」との考えのもと、宮城県気仙沼市周辺の大川流域を舞台に、この取り組みを進めているのが、NPOピースネイチャーラボ。首都圏のカフェのレジ横での直販と、オンラインショップ「森里海工房」の2つのルート

で地元産品を販売。主力商品は、独特の食感を持ち、地元の浜で手拾いされたクルマシなどを使った「森のクッティー」と、大川流域のめぐみで育ったというカキの燻製です。

ピースネイチャーラボが2014年4月中にも仮オープンさせるレストランでは、地元の森里海の幸を活用し、地元料理はもちろん、世界の漁師料理や郷土料理もメニューに加える計画です。その後、体験型のプログラムも計画しています。

※この事業は、みなさまからのご寄付のほか、JTI Foundationの協力も得て実施しています。

レストラン完成イメージ 海側より全体を見る



レストラン内部



商品を試食するピースネイチャーラボのスタッフ

「ふるさと学習会」から「わらすこ探検隊」へ 一子ども支援も息長く

コミュニティの再生を将来担うことになる子どもたちに、地域のよさを知ってもらい、さらに地域の外にも目を向けてもらおうと、PWJは2012年6月から南三陸町で子どもたちを対象とした講座をサポートしてきました。実施回数は通算で50回を超え、PWJは今後も支援を続けます。

この取り組みは「南三陸町アフタースクール事業」として始め、その後、「ふるさと学習会」として実施してきました。2013年5月からは一般社団法人南三陸町復興推進ネットワークが企画・運営の主体となり、9月からは名称も「わらすこ探検隊」（わらすこは、地元の言葉で「子ども」）に変わりました。

「息の長い支援をしたい」「子どもたちのために、もっとできることがあるのではないかな」という思いを持って、復興支援にかかわっていただいている企業・団体の方にもご協力いただき、「企業先生」として講師を務めるなどしていただいています。

震災後、運動場や公園などには仮設住宅が建設され、各地でかさ上げ工事も進んでいるため、子どもたちが思い切り走り回る機会も減っています。そのため、専門的な知識や科学、デザインを体験しながら学ぶものに加えて、スポーツ選手と一緒に体を動かしてもらうような企画も取り入れています。



富士通株式会社 アメリカンフットボール部の協力もいただいたデイキャンプ(8月18日)



三井化学株式会社「ふしぎ探検隊」の協力をいただいた「ふしぎ化学実験」(9月22日)

※この事業は、みなさまからのご寄付のほか、ジャパン・プラットフォームの協力も得て実施しています。

「被害を繰り返すまい」と震災記録誌の制作を支援

PWJが、岩手県陸前高田市広田町の自主防災会とともに制作に取り組んできた震災記録誌「広田の未来(あした)に光あれー平成23年3月11日平成三陸大津波 広田町の記録」が2013年9月に完成しました。震災当日から避難生活までの間の状況や取り組みを詳しく紹介し、同町内全戸に配布したほか、戸羽太市長にも直接、贈呈しました。



出漁時の安全と防犯のため被災漁港へ照明設備

宮城県南三陸町歌津地区では震災ですべての漁港が被災しました。早暁の出漁時の安全確保や密漁対策につながる照明設備がいまだに不足している漁港もあり、漁業・経済復興にも影を落としています。PWJは姉妹団体ピースウィンズ・アメリカとともに被災漁港にソーラー街灯を設置します(2014年3月完成予定、写真は同型)。



民間救急ヘリのテイクオフを支援

大災害時、道路が分断されても孤立した人の救助などができるよう、宮城県気仙沼市内に現地事務所を置き、平時には緊急搬送ヘリコプターを運航するNPO オールラウンドヘリコプターの取り組みをサポートしました。格納庫建設を支援したほか、フォークリフトや夜間灯火設備などの資機材を提供しました。



地域活性化へ連続イベントで交流の輪を拡大

交流を広げ、地域の魅力を再発見することで活性化を目指そうと、NPOあすわと共同で連続イベント「リアスワールド」を開催しました。「遊び」「体験」「食」など、5つのカテゴリーで、20のイベントを実施。のべ200人以上の参加がありました。PWJの山本理夏も途上国の生活を子供たちに伝えました。



被災のまちにソーラー街灯で安全・安心と希望を

宮城県南三陸町では、通学路や緊急時の避難路に街灯が設置できず、原発事故の被害を受けた福島県浪江町(写真は)では、日没後の電気が灯りません。南三陸町では住民の安全確保のため、浪江町では住民帰還への希望を込めて、計61本のソーラー街灯を設置します(2014年3月完成予定)。



福島で被災した犬・猫の保護、飼育を支援

震災では、多くの犬や猫も痛手を負いました。とくに原発事故に見舞われた福島では、飼育が困難になった犬・猫が多くいます。PWJは、一般社団法人ふくしまプロジェクト、NPO犬猫みなしご救援隊と連携しながら、福島県と広島県で被災犬・猫の保護や飼育、動物愛護のための啓発活動をサポートしています。



特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

気仙沼事務所

〒988-0053
宮城県気仙沼市田中前
1-3-13 エンドービル2階
TEL:0226-25-9220
FAX:0226-25-9223
<http://peace-winds.org/>

本部

〒720-1622
広島県神石郡神石高原町
近田1161-2 2F
TEL:0847-89-0885(代表)

PWJの支援活動については、ぜひホームページもご覧ください。

Q「ピースウィンズ 東北」で検索

<http://peace-winds.org/activity/tohoku/>

ツイッターフェイスブックでも最新の活動状況を報告しています。



東日本大震災復興支援 ピースウィンズ・ジャパン (PWJ) 会計報告

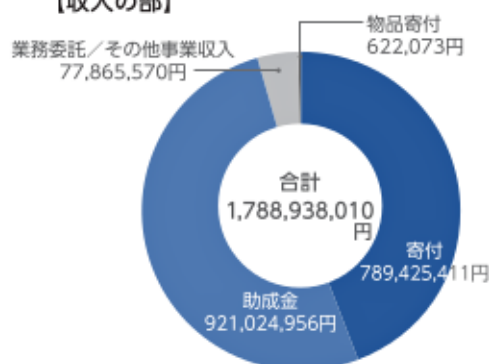
2011年3月～2014年1月

PWJの東北事業にご支援をいただいている主な企業・団体

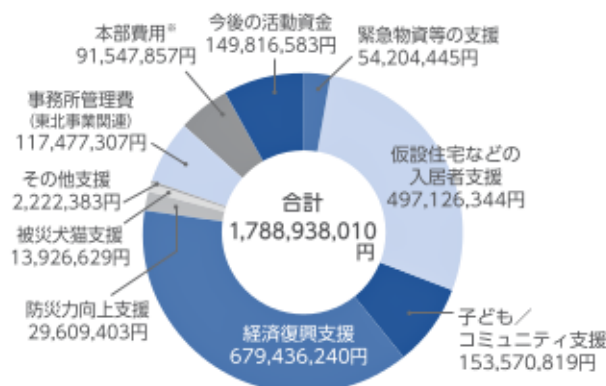
※2013年度に30万円以上/2011年度から3年間継続支援

ウエストヒルズ コンサルティング株式会社
 キヤノンマーケティングジャパン株式会社
 KIEHL'S SINCE 1851(キールズ)
 株式会社SitaRama
 ディー・エイチ・エル・ジャパン株式会社
 パカラ
 フィアット クライスラー ジャパン
 株式会社藤田商店
 三菱樹脂株式会社
 三菱電機関連労働組合連合会
 UBSグループ
 (UBS証券株式会社、UBS銀行東京支店、
 UBSグローバル・アセット・マネジメント株式会社)
 株式会社有隣堂
 株式会社ユニテッドアローズ
 リコージャパン株式会社
 株式会社ワットマン
 豊明市立豊明中学校
 山形県立鶴岡中央高等学校
 非営利活動団体あそびわ
 NGOサポート募金(運営: JANIC)
 J.S.Foundation
 JTI Foundation
 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム
 特定非営利活動法人チャリティ・プラットフォーム
 公益財団法人パブリックリソース財団
 Peace Winds America
 Mercy Corps

【収入の部】



【支出の部】



※2011年3月11日～2014年1月31日(暫定値)

※事業地を特定した寄付をいただいた場合、PWJでは、ご寄付額の最大15%を本部の活動や運営のための費用(事務所の管理運営費、調査・提言活動のための費用など)に活用させていただいています。



引き続き、地元の方々とともに

PWJ東北事業責任者 角免昌俊

多くの人の命を奪い、生活を一変させた東日本大震災の発生から3年。新聞やテレビで被災地のようすが取り上げられることも減り、復興支援活動を終了する団体も少なくありません。

PWJの東北事業には、3年間に5980の個人・団体のみなさまからご寄付、ご支援をいただきました。PWJは、従来から重視してきたコミュニティ支援や経済復興などを柱に、東北での活動を継続していますが、地元の方の関与を強めることがさらに重要になってきていると考えています。「いきがいサポートセンター(仮称)」の取り組みで、住民のみなさんに各地に視察に行っていただき、利用方法などを考えていただいたのもその一環です。

被災地では、震災からの復興だけではなく、過疎化や少子高齢化など以前からある課題も深刻です。PWJは地元の方、協力いただいている支援者の方とともに、こうした課題にも向き合っていきます。